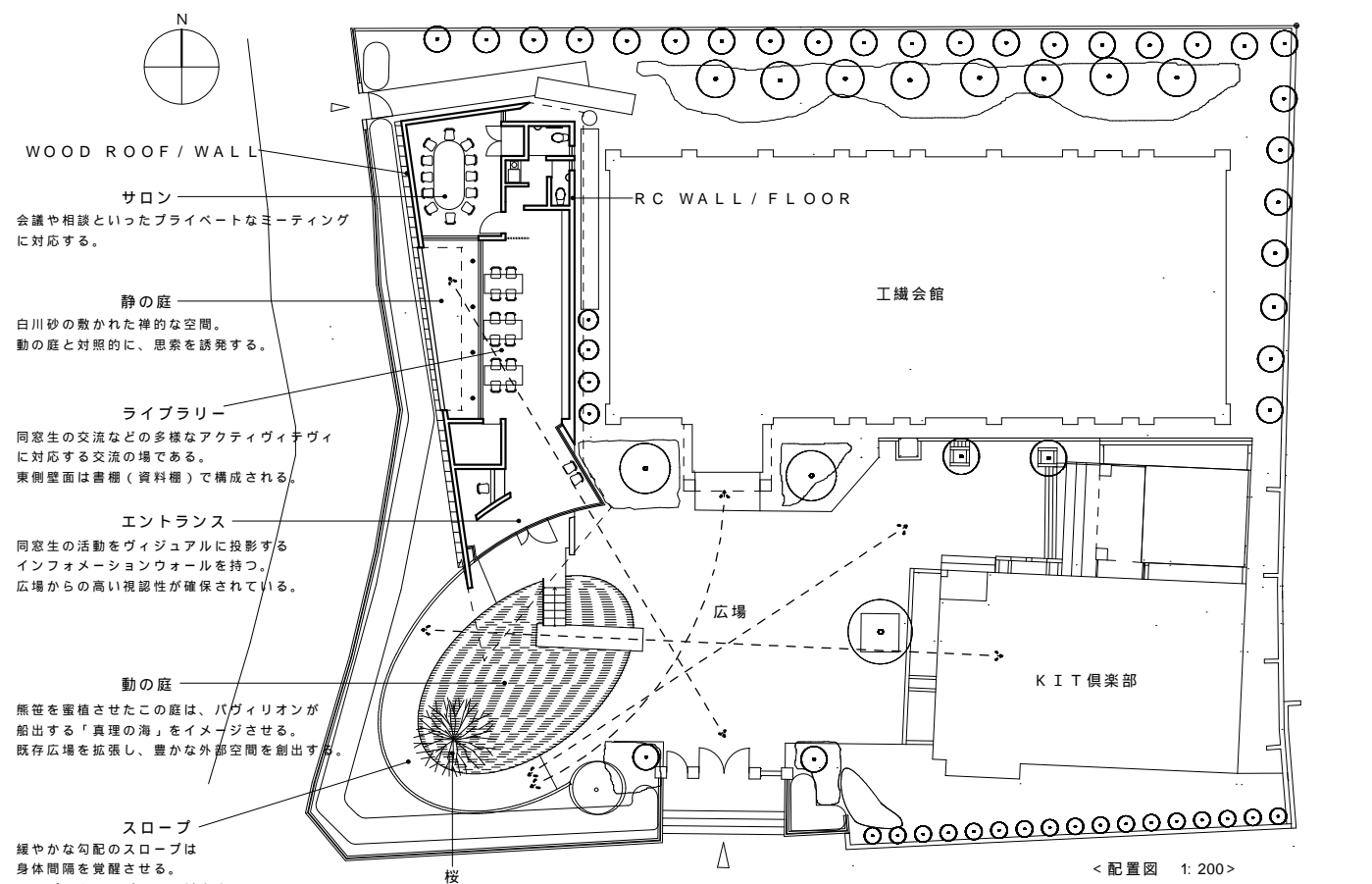
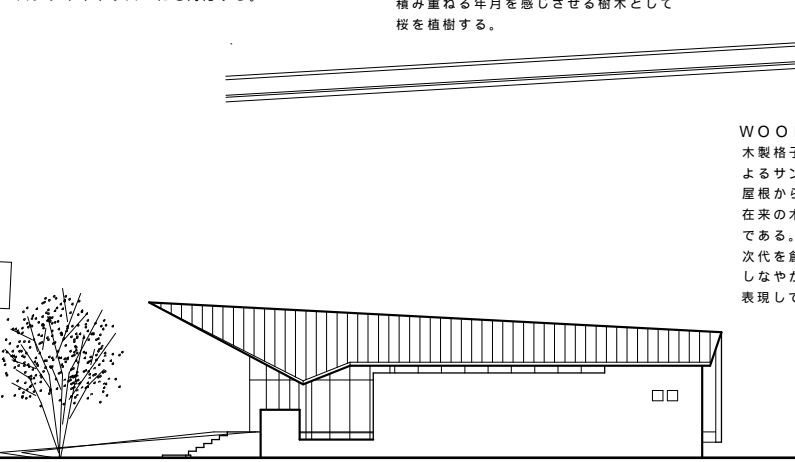


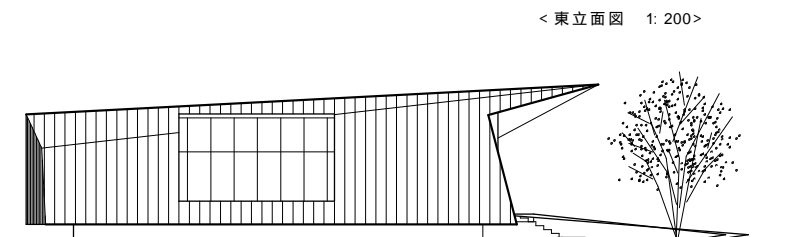
<平面図 1:100>



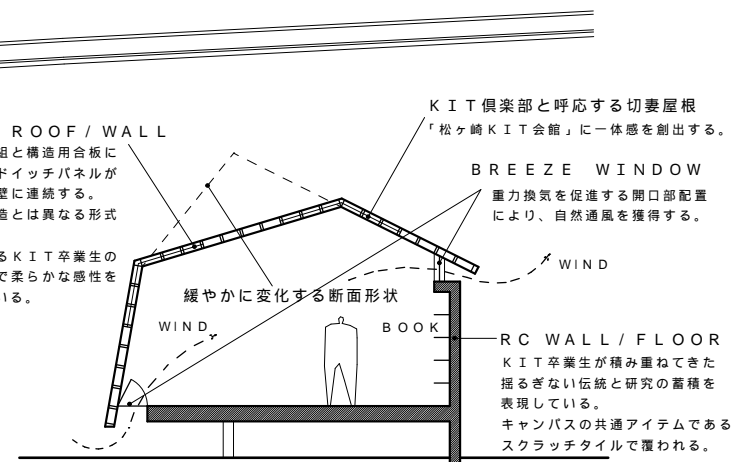
<配置図 1:200>



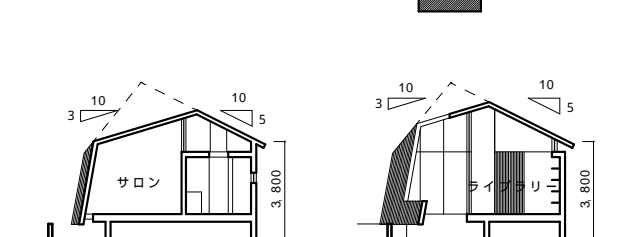
<東立面図 1:200>



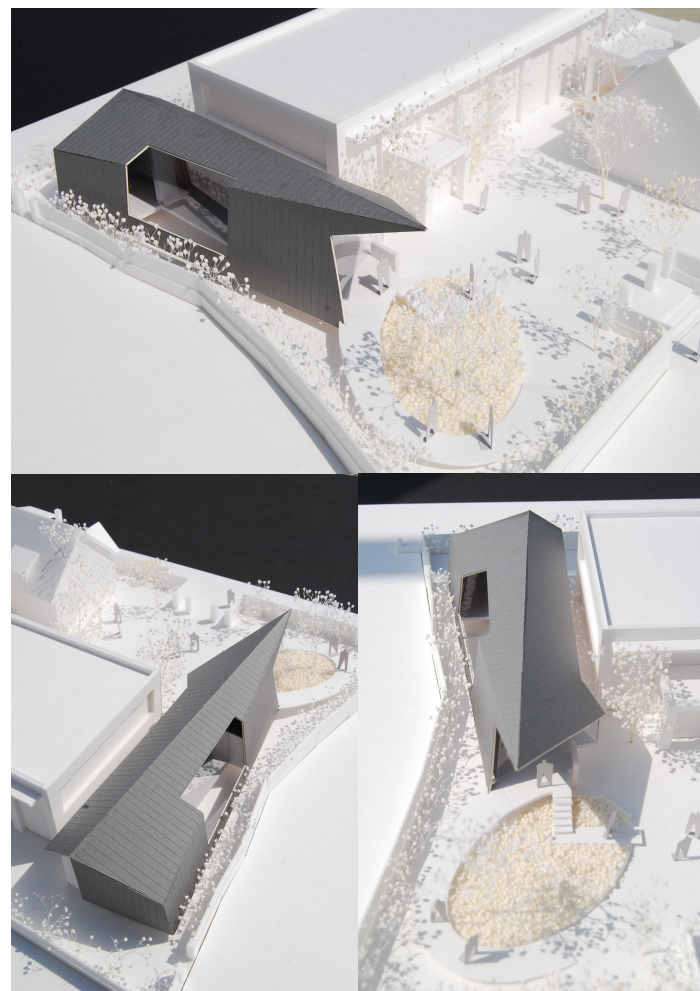
<西立面図 1:200>



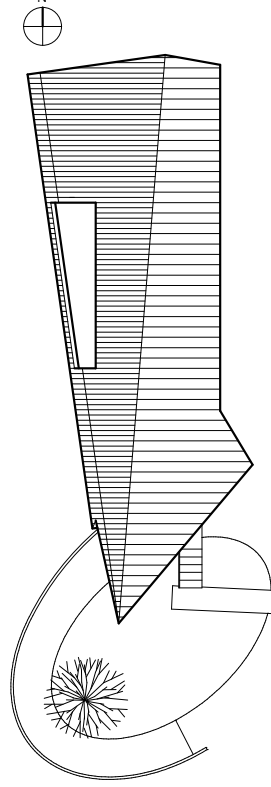
<断面図 1:200>



<断面図 1:200>



京都工芸繊維大学 新同窓会パヴィリオン・・・真理の海に船出する「智の方舟」
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY ALUMNI PAVILION



<屋根伏図 1:200>

この建築は次の三つのテーマのもとに構成される。

京都工芸繊維大学の教育・研究理念の具現化
新たな智の世界を育む刺激的な場所の創出
次代を担う京都工芸繊維大学の新しいイメージの構築

上記の各テーマは、本計画案において下記の建築的操作により「智の方舟」として具現化される。

鉄筋コンクリートと木による混構造

科学と芸術、右脳と左脳、理論と実践といった、二つの概念を融合する領域に、本学の特性がある。その二つの世界の融合を表すものとして、RC構造の壁/床と木構造の屋根/壁による混構造を提案する。連続と続く本学の伝統や智の集積を大地に根差した力強いRCの構造体で表現し、未来に飛翔するクリエイティブで軽やかなイメージを、木格子と構造用合板を一体化したシャープな木構造パネルで表現する。

相互に補完しあう対概念としての二つの庭

身体と精神の双方が融合することで、新たな智の世界が開かれるものと考え、その二つの世界の関係性を、性格の異なる庭によって表現する。風に揺れる熊笹が密植される「動の庭」はスロープを伴うアプローチ空間を構成し、そこを歩く人の身体性を刺激する。一方、日の光を柔らかく反射する白川砂が敷かれた「静の庭」は、奥まった位置に配置され、打合せや会議等のアクティビティをサポートする。これらの外部空間が内部と一体となって機能することで、この建築はランドスケープと融合され、この場所に根付いたものとなる。

サステナビリティに配慮した開放性の高い空間構成

内部空間は断面形状が変化するワンルーム空間である。可能な限り自然通風を行うために、RCと木の二種類の構造体の間に通風口を設ける。開放的な構成をとりつつプライバシーの要求される会合にも対応するために、12人程度のサロン(会議室)を設けている。斜めに走る屋根の稜線(棟)を内部空間にも現すことで徐々に天井形状と高さを変化させ、単一空間でありながら変化に富んだ多様な空間を創出する。

面積表	容積対象床面積：79.859㎡	建築面積：91.904㎡	エントランス：14.41㎡	ライブラリー：29.16㎡	サロン：18.64㎡	事務室：3.95㎡
敷地内建物合計容積対象床面積：664.63㎡		敷地内建物合計建築面積：447.39㎡		容積率：56.14% <80%		建蔽率：37.79% <50%